氷見市地域おこし協力隊
活動報告
令和8年9月

第10期　論田・熊無地区　竹岡怜音

竹岡怜音

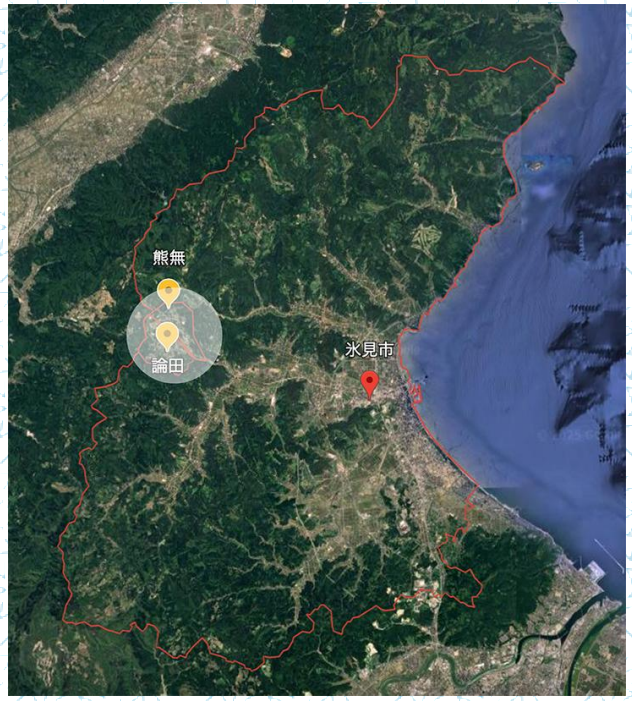
TAKEOKA REO



PROFILE

2001/07/02	神奈川県中郡大磯町出身
2020/04	神奈川県立小田原高等学校 卒業
2024/03	武蔵野美術大学造形学部建築学科 卒業
2024/04	富山大学人文社会芸術総合研究科 入学
2025/04	同大学院 休学 → 氷見市地域おこし協力隊10期生

活動場所　論田・熊無地区



活動拠点

↓ろんくまのいえ　食彩ふるさと



Mission（大枠）

①草もちの販路拡大、付加価値向上のためのSNS等での情報発信、企画立案

②草もちの製造加工、改善点等の提案（人員確保、生産性の向上）

③令和７年度整備予定の宿泊体験交流施設（草もち加工場も移転予定）の運営計画の検討（１年目）、実際の運営（２年目以降）

④その他、「食」などの地域資源を生かした地域活性化に関する取組みの試行

現在の活動

・草もちに関する業務（製造・配達）

・宿泊体験交流施設のインテリアデザイン

・宿泊施設のサービスに繋がるようなWS・イベントの企画・実施

・SNSによる情報発信

・論田・熊無地域の地域資源を記録

⇒地域の価値を再発見するアーカイブ制作





ーR7からR8初めに行ったろんくまのいえに関する活動ー



食彩ふるさとポーチ施工
ワークショップ



ろんくまのいえオープニング
セレモニー



ろんくまのいえ漆喰塗りワー
クショップ



ろんくまのいえインテリアデザイン



論田集落1/1000模型

ー東京農大農業インターンシップ ー



熊無竹林整備



ろんくまのいえ周辺生態調査



学生と地域住民の意見交換会



長谷川農園作業補助



流しそうめん台制作



地域住民と草刈り

ーふるさと未来カレッジ　実践女子大・相模女子大ー



野草採集ワークショップ



草木染めよもぎ染料作り
ワークショップ



蓬の草木染めワークショップ



たたき染めワークショップ



たたき染めワークショップ



屋外スツール制作ワークショップ

ーふるさと未来カレッジ　富山大学デッキ制作・漆喰塗りWSー









ー論田・熊無の地域資源を記録した地域の価値を再発見するアーカイブ制作ー



←論熊地域の日常を記録したブックレット

A3の紙を２回折ってA5にしたものに、１０枚の写真と約５００文字のエッセイを季節に合わせて記載しました。
地域向けに配布したり、クラフトイベントで販売し、地域の発信活動を行っています。
現在5号まで作成しており、今後作り溜めたものを一冊にしてアーカイブ冊子を作成したい。



←氷見の食材を使って作れるレシピブック

氷見のお土産屋さんやスーパーで手に入る食材を使ってつくれる、氷見のレシピをまとめたブックレットを作成した。（地域でお惣菜屋を営む方との協力）。
今後はレシピの数を増やし、ろんくまのいえの来訪者に手に取ってもらったり、氷見のお土産として持ち帰ってもらえるようなものにしていきたい。

ーその他の活動ー

20260530　　水見市地域おこし協力隊　竹岡怜音

TOKUMATSU FREE PAPER

＜とくまつふりーぺーぱー５月号＞

こんにちは。地域おこし協力隊の竹岡怜音です。今年度から紙面で月ごとの活動報告を行わせていただきます。
宿泊体験交流施設「ろんくまのいえ」がプレオープンし、宿づくりがひと段落したところで、この地域の暮らしや風景を私自身の視点で見つめ、記録してきたものをまとめた小冊子を制作しました。タイトルは『徳松ブーケ』です。
「徳松」は旧荒屋商店の屋号として、この地域で親しまれてきた呼び名です。
「ブーケ（bouquet）」はフランス語で、「花束」を意味します。私がこの地域を観察し、心に留めた風景や出来事を写真に収め、そこに短い文章を添えて一冊に束ねたことから、このタイトルを付けました。（右写真表紙→）
この小冊子「徳松ブーケ」は来月から隔月でこの活動報告と一緒に配ります。





また今月は宿泊施設にこんなものがあったら良いなというもののうつとして、氷見のお土産や食材を使って作れるレシピ小冊子を製作しました。今回は春が旬の食材をテーマにお惣菜屋さんに監修していただき、６品製作することができました。
このレシピはＡ５サイズの紙一枚に、材料や作り方、メイン食材についての説明をまとめたものです。宿泊者の方が「ろんくまのいえ」で実際に調理し、食べた日を記録として残し、そのまま持ち帰ることができる一枚のレシピになっています。（右写真→）
料理をつくり、その土地の食材を味わう体験を記録として持ち帰っていただくことで、この地域を訪れた記憶や、氷見の食文化に触れた時間が、旅の思い出としてより深く残ることを願っています。

来月以降は「徳松ブーケ」や食彩ふるさとのインスタグラム用の写真撮影を続けるとともに、この地域の食をテーマにした宣伝物の制作や、宿泊施設の外部空間を地域と外をつなぐ場にするための企画・制作にも取り組んでいきたいと考えています。（竹岡怜音）

20260917　　水見市地域おこし協力隊　竹岡怜音

TOKUMATSU FREE PAPER

＜とくまつふりーぺーぱー９月号＞









こんにちは。地域おこし協力隊の竹岡怜音です。先月から続いている「ふるさと未来カレッジ」や「東京農業大学農業インターンシップ」で論熊を訪れた学生たちと、さまざまな活動を行ってきました。
8月末に行われた東京農業大学の農業インターンシップでは、主に活動の記録撮影を担当し、草刈りや「ろんくまのいえ」周辺のフィールドワーク、竹林整備と流しそうめん、長谷川農園さんでの作業補助や収穫体験など、さまざまな活動を学生たちと一緒に体験しました。その中でも、学生たちと一緒にいただいた食事がとても美味しく改めて、この地域の強みは「風土」と、そこから生まれる「食」なのだと実感しました。きっと学生たちも同じように感じていると思います。
また８月と９月にろんくまのいえに滞在した相模女子大学、実践女子大学は論熊や論熊地域周辺でのFWを通して富山大学の学生と共同で論熊地域をＰＲするためのフリーペーパー（無料で手に取れる冊子）を制作しています。学生たちと地域を回る中では、地域の方々が育てた野菜をお裾分けしてくださったり、この地域での暮らしについてお話を聞かせてくださったりと、私自身も学生たちも、たくさんのことを学ばせていただきました。首都圏で暮らす学生たちにとっては、地域の方と直接話したり、普段の暮らしに触れたりすることも新鮮だったようで、普段とは違う環境の中で、それぞれにいろいろなことを感じてもらえたのではないかと思います。また、私が企画した草木染めと叩き染めのワークショップも行いました。地域の野草から染液を作って手拭いを染めたり、葉や花びらを使って模様を転写したりと、この場所にあるものを使って染め物を楽しみました。学生たちにとっても、身近にある野草が染料になることや、葉や花びらから模様が生まれることなど、新たな発見のある体験になったと思います。こうした、この場所ならではの体験を通して、今後この地域でやってみたいことにつながる最初の一歩をつくることができたのではないかと思います。





・地域住民向け活動広報誌の作成・配布

月報とは別に、地域住民に向けた活動広報誌を毎月作成。地域の方々との活動報告会を行った後、論田・熊無地区の全戸に配布し、活動内容や地域での取り組みを共有しています。

・食に関するイベントに出展

草もちを富山市や東京で行われた食に関するイベントに出展し、販売。作成した地域の情報が知れるリーフレットなどを購入者に配布し、情報発信も行いました。

・地域の方の活動の記録撮影

主に稲作などの農作業を撮影しています。

ー今後行っていきたいことー

・地域のポテンシャルをテーマにしたイベント企画・実施

ex：季節ごとのろんくまの食を風景とともに味わうイベント

→お米の収穫の時期や果物など、その食材がとれた場所で風土と食を通じて地域を知るイベント（現在企画中）

・地域資源を使ったワークショップの企画・実施

ex：ろんくまの野草を使った草木染め・叩き染めワークショップ

→ふるさと未来カレッジで都市部に暮らす学生を対象に行ったところ、誰でもできる手軽さや学び多いワークショップであることがわかったので、今後宿泊体験交流施設の体験サービスに繋がると考えています。

・収穫から加工までを学ぶフードクラフト（梅干し・味噌など）

ex：食材の収穫や保存食づくりなどを地域の方々の食に関する知恵を学ぶことができるワークショップ。

→地域を知り、人とつながることができるため今後宿泊体験交流施設の体験サービスに繋がると考えています。

ー活動の中で感じたことー

・実際に宿泊体験交流施設がオープンし、学生たちに宿泊してもらいながら、さまざまな活動に一緒に取り組む中で、今後、施設としてどのようなサービスを提供できるのか、また、どのようなイベントを開催していけるのかが、少しずつ見えてきました。

　今後は、こうした経験をもとに、施設や地域だけで継続的に運営していける仕組みづくりにも取り組んでいく必要があると感じました。

・今後、残りの任期で自分の得意分野を活かして取り組めることは、イベントやサービスの企画・デザインだと考えています。

　宿泊体験交流施設のスタッフ業務を行いながら、現在企画しているイベントやワークショップを継続的に実施するとともに、地域資源を記録した作品の制作にも取り組んでいきたいです。こうした活動を継続していくことで、地域の魅力や資源を可視化し、この地域を内外から盛り上げていくことにつなげられると考えています。

・草もちに関しては、今後、この施設での直売体制を整えていきたいと考えています。

　現在は、従業員の方々からまだ完全な承諾を得られていないため、まずはイベントなどの機会を活用しながら、試験的に販売を行い、少しずつ実施方法や体制を整えていければと考えています。